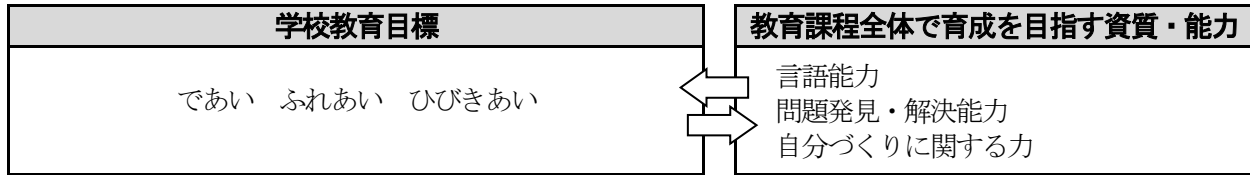


1 中期学校経営方針



(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力



(2) 中期取組目標

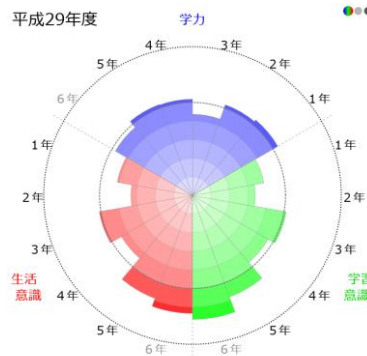
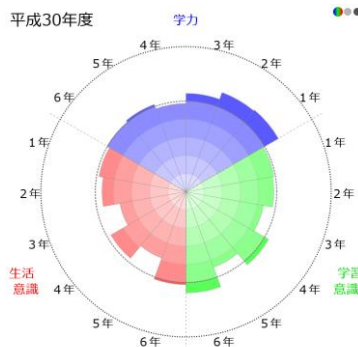
中期取組目標
○地域・家庭・学校との連携を深め、温かい雰囲気のなかで子どもたちが生き生きと成長することができる学校を目指します。 ・一人一人が自分の思いを表現できる授業をめざし、基礎基本の定着を図り、学力向上に取り組みます。 ・多くの人々とのかかわりや体験を通して学び、主体的な活動を目指します。 ・自他とのかかわりのなかで、自他のよさに気づき、互いに認め合う心を育てます。 ・地域・家庭と連携を図り、協働教育を常に意識した信頼される学校づくりを目指します。 ・体力向上を目指し、身体と心の健康について全校で取り組みます。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	①ねらいを明確にした授業を行い、基礎基本の定着に重点を置くとともに、主体的に問題解決に取り組めるようにする。 ②授業での子どもの様子や学習状況調査の結果を分析して課題を把握し、主体的・対話的・深い学びをめざす授業につなげていく。
担当 学力向上委員会	

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析



(1) 学力の概要と要因の分析

横浜市全体と比べた結果を見ると、国語、社会、算数、理科ともに若干ではあるが市の平均を超えている。朝学習を続けてきたことで成果が出てきていると思われる。生活意識は、市の平均を下回っており、学力がついてきていることが、生活意識の向上につながっていない様子がうかがえる。

(2) 教科学習の様子

- 国語科：学年によって「書く」「読む」「話す・聞く」など得意とする領域が違っている。それぞれの学年での傾向を把握し、領域に応じた対応策を考えていく必要がある。
- 社会科：前年度と同じく市平均と同様の様子が見られる。領域によってばらつきが見られ、それぞれの領域で学習内容をまとめる時間を大切にしていける必要がある。
- 算数科：市平均を上回った領域が多く、朝学習で行っている計算練習の効果が考えられる。
- 理科：前年度は「技能」が低い傾向にあったが、市平均に達した項目も出てきた。引き続き、観察、実験等「技能」面を高めていく対応が必要である。

(3) 経年変化の状況と要因の分析 (学習意識・生活意識調査も含めて)

- 昨年度に引き続き、徐々にではあるが学力は伸びてきている。この傾向を続けていけるように、得意な分野、不得意な分野を各学年で現状分析し、学年に適した指導方法を今後も考えていく必要がある。
- 生活調査は、市の平均を少しではあるが、下回っている状況がここ数年続いてきている。自尊感情がもてるような活動を行い、前向きに生活していけるように考えていく必要があると思われる。

1 学年

- 日々の音読や朝の読書タイム、朝学習の時間の計算、平仮名、漢字の練習の練習を継続し、基礎的な学習の力をつけるようにする。
- 相手の話をしっかり聞くことを大切にし、分からないことや知りたいことを尋ねたり、自分の気持ちを相手にわかるように話したりするように指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

2 学年

- 日々の音読や図書の時間、読書タイムの時間をしっかりと確保し、いろいろな種類の本に親しめるようにするとともに、読んだ感想を書いたり話し合ったりする活動を充実させる。
- 教科等で、具体的な活動や体験を通して自分なりに考え、絵や図や報告する文章・説明する文章を書くなど、表現活動を大切にする。
- 大事だと思った点を確かめたり、自分の考えと同じか違うかを考えたりしながら、話し合うように指導する。

3 学年

- 基礎基本の定着が見られる学年であるので、今年度も当該学年の学習内容の基礎基本をしっかりと理解、定着をはかっていく。さらに、それを活用して課題を解決する力を伸ばしていく。
- 学習した内容のおさらいの位置として朝学習をとらえ、有効に活用し、算数の計算技能の向上、漢字の読み書きの定着、読書による文章理解を深めるなどの基礎基本の定着をはかっていく。
- 各教科では、子どもたちから、自分事として学習課題を引き出すことを重視し、課題に対してグループやペアでお互いの考えを出し合うように進める。それにより、コミュニケーション力の向上とさまざまな考えに触れての考える力の向上及び学習の活用する力の向上をはかる。

4 学年

- 日々の音読や朝の読書タイムの時間の確保・国語の並行読書の充実など、様々な場面で本に親しみ読書経験を増やして語彙や表現を豊かにする。
- 各教科において、一人で考える時間やグループでの話し合いの時間を設け、自分の考えを表現したり相手の考えをしっかりと聞いたりする活動を行う。
- 校外学習や体験学習を通して、教室で学んだ学習を現地で実際に体験や確認をし、実体験を大切に学習を行う。

5 学年

- 問題で問われていることをしっかりと理解し、考え、解答する力をつけるために、日々の音読や読書タイム、並行読書の充実など本に親しむことで読解力・語彙力を豊かにする。
- 考えや思いを発言すること、言葉で表現できるように、グループ活動やペア活動など自分の言葉で語る場面を設け、コミュニケーション力の向上を大切にする。
- 校外学習や体験学習を通して、現地で学んだこと、資料をで得た情報を整理し、発信する活動を充実させる。

6 学年

- 基礎基本の定着をはかるため、朝のスキルタイムの徹底や分かりやすい授業づくりに努める。
- 話し合い活動を取り入れ、子ども同士で意見のやり取りをしたり、友達の意見から自分の考えを深められるような授業展開をする。
- 自分の考えをしっかりともち、理由を明確にして意見を話したり考え方を説明したりできるようにする。

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付ける。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行う。
- 子どもに応じた分かりやすい情報発信をするなど、言語環境の整備を行う。